

(2) 地域的価値

札幌は、北海道開拓の拠点として開拓使により計画的にまちづくりが進められた都心部を中心として、農村や郊外住宅地として発展した周辺町村との合併を繰り返しながら拡大してきたため、それぞれの地域に固有の発展形成の歴史があります。

そのため、歴史的景観資源には、地域や都市の形成過程を示すものや、地場産業の歴史を伝えるものがみられます。

中心市街地や郊外住宅地としての発展過程を物語るもの、都市の形成過程を示す施設や地域の発展に寄与した近代化遺産、周辺旧村落地区の形成や地場産業の歴史を伝えるもの、地域の歴史と密接に関わる由緒・由来のある施設や緑環境なども、地域的価値として評価されます。



旧三谷牧場牛舎・サイロ

(西区発寒8条13丁目・昭和3年(1928年)築)

明治39年に現JR発寒駅北側で牧場を開き、これらの建物は昭和初期に鉄道南側にレンガ造で建設。現在、カフェレストランとして再利用され、市民に親しまれている。周辺が大変貌する中、酪農地帯であった発寒の歴史を伝える貴重な地域遺産である。

- 市街地形成の歴史を物語っている
- 地域固有の建築種別の典型例である
- 産業と地域の発展に寄与している
- 地場産業の歴史を伝えている
- 地域の歴史と密接に関わっている など



苗穂小学校学校記念館

(東区北9条東13丁目・昭和12年(1937年)築)

昭和12年に移転新築した苗穂小学校の旧校舎の一部を、ほぼ元の位置に記念館として保存。市街地に唯一残る戦前期の木造校舎で、当時の典型的な小学校教育の場を伝えている。



三誠ビル

(中央区南1条西13丁目・大正13年(1924年)築)

南1条通りの角地に建つ元藪合名会社の自社ビル。多数のテナントを収容しつつ、ほぼ当初の外形を保持しており、当時最先端にあった事務所建築の姿を今に伝えている。



旧真駒内牧牛場用水路

(南区・明治12年(1879年)築)

明治12年エドウィン・ダンの提唱で掘削された真駒内牧牛場の用水路。その後、平岸や豊平、白石の水田の発展に寄与した。一部は真駒内団地の緑道として、快適な散策空間となっている。



レンガの館

(西区八軒1条西1丁目・昭和4年(1929年)築)

昭和4年建築の元野菜缶詰工場。マンションの共有施設として保存活用されているれんが建築は、かつて工業地区として栄えた琴似駅周辺地区の貴重な記憶である。

円山公園内のヨーロッパクロマツ

(中央区宮ヶ丘)

明治13年に道庁周辺にあった札幌官園が円山養樹園として移された際に、その入り口に植えられたという。国内外の樹木を試験栽培する同園の開設は、円山地区発展のきっかけともなった。



石山緑地

(南区石山)

米人技師アンチセルらの発見で始まった札幌軟石の採掘場跡。明治7年から採石された、札幌や周辺地域に建つ石造建築のふるさとである。石山地区の発展を支えた最大の石切り場が、見事な芸術空間に甦っている。



旧簾舞通行屋(旧黒岩家住宅)

(南区簾舞1条2丁目・明治5年(1872年)築)

札幌における通行屋の唯一の遺構。明治5年、小休所として設置され、同19年に現在地に移築。後に役場出張所や私設教育所などにも利用された。明治30年代増築の住居部分も簾舞地区最古の開拓農家遺構である。